

地域計画

策定年月日	令和 7 年 3 月 31 日
更新年月日	令和 年 月 日 ()
目標年度	令和 16 年度
市町村名 (市町村コード)	丹波市 (28223)
地域名 (地域内農業集落名)	市島町北奥 (前地)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	7.8 ha
① 農業振興地域のうち農用地域内の農地面積	7.4 ha
② 田の面積	7.6 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.1 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.0 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	— ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	— ha
(備考)	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。
 5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

・農業従事者の高齢化が急速に進み、農業を担っていくこと自体が困難な状況となっている。後継者もなく、今後、5年も経てば遊休農地が急増するのではないかと危惧している。
 ・農地の維持管理のため自己保全の草刈りなどを行っているが、高齢化のため、急斜面の法面では作業自体に大きな危険を伴い、いつ大怪我が起こってもおかしくない状況である。
 ・鳥獣害対策として、北奥区の山中に防護柵を設置し点検や補修を行い、更に各農家が電気柵などを設置しているが猪や猿をはじめ鳥獣害の被害が大きく、対応に苦慮している。
 ・農業機械の高騰により、各農家では今後トラクターなどを更新することが困難であり、農業自体を続けることが不可能な農家が多くある。
 ・近年の大雨で用水路の破損、法面の崩壊が多発してきている。草刈り作業とは別途、法面の維持管理も大きな課題となっている。
 ・多面的機能支払交付金で老朽化による用水路などの補修を行っているが、対応が追いつかない状況である。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

<input type="checkbox"/> ①当地区は水稻を主に、農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。 <input checked="" type="checkbox"/> ②当地区は水稻を主に、特産の丹波大納言小豆、黒大豆等を拡大していく。 <input checked="" type="checkbox"/> ③地区内外の認定農業者・集落営農組織等に農地の集積・集約化を進める。 <input checked="" type="checkbox"/> ④新規就農者を積極的に受け入れる体制作りを進める。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤施設、果樹等の高収益作物の導入を進める。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥農業を担う者への農地の再配分を進めることができるよう、必要な条件整備を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦農地の効率的かつ総合的な利用を図るため貸借相談等を行う部署を設ける。 <input type="checkbox"/> ⑧山裾の農地について、適地等の判断を行い丹波栗等に転換していく。 <input checked="" type="checkbox"/> ⑨多面的機能が維持できる農地管理を行う。(放棄田発生防止) <input type="checkbox"/> ⑩その他()	【該当する事項に☑を記載】
---	---------------

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
【該当する事項に☑を記載】			
<input checked="" type="checkbox"/>	①農地バンクへの貸付けを進めつつ、担い手(認定農業者、集落営農法人、農業法人)への農地の集積・集約化を図る。		
<input type="checkbox"/>	②担い手以外の農業を担う者にも地域のバランスを考えながら農地利用を進める。		
<input type="checkbox"/>	③その他()		
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	6 %	将来の目標とする集積率	41 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
【該当する事項に☑を記載】			
<input type="checkbox"/>	担い手が利用する農地面積の団地数	⇒	1 箇所 平均 43 a (令和 6 年度時点)
<input checked="" type="checkbox"/>	団地数の半減及び団地面積の拡大を進める。	(令和 16 年度)	

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組	
【該当する事項に☑を記載】	
<input checked="" type="checkbox"/>	①農地中間管理機構(農地バンク)を活用して、認定農業者や新規就農者等(担い手)を中心に集積・集約化を進める。
<input type="checkbox"/>	②その他()
(2) 農地中間管理機構の活用方法	
【該当する事項に☑を記載】	
<input checked="" type="checkbox"/>	①農地中間管理機構を活用して、担い手等の経営意向をくみ取り、段階的に集積・集約化を進める。
<input type="checkbox"/>	②その他()
(3) 基盤整備事業への取組	
【該当する事項に☑を記載】	
<input type="checkbox"/>	①地域のニーズを踏まえ、農地管理の効率化を図るためパイプライン等の基盤整備事業を進める。
<input type="checkbox"/>	②担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を()年度までに実施する。
<input checked="" type="checkbox"/>	③現在、基盤整備事業は考えていない。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組	
【該当する事項に☑を記載】	
<input type="checkbox"/>	①関係機関と連携し、地域内外から多様な経営体を募集する。
<input checked="" type="checkbox"/>	②農地の貸し借り、斡旋等の相談から定着までを行う機能(組織)を設置する。
<input type="checkbox"/>	③その他()
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
【該当する事項に☑を記載】	
<input type="checkbox"/>	①水稻栽培に関しては設備投資を抑えるため、地区内の営農組織に依頼する。
<input type="checkbox"/>	②水稻以外の農作業の効率化を図るため、農業支援サービス事業者へ作業委託する。
<input checked="" type="checkbox"/>	③遊休農地発生を防止するため、作業遅れ等発生する場合は極力農業支援サービス事業者へ作業委託する。
<input type="checkbox"/>	④その他()

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/>	⑩その他
【選択した上記の取組内容】									
①鳥獣害対策として、防護柵の点検・補修、各農家の電気柵や防護柵設置などの対応を行っているが、それだけでは猿や鳥の被害を抑えることができていない。更なる鳥獣害対策を検討するとともに、猿出没時などに素早く連携が取れるネットワーク作りを検討していく。									
①箱罟の設置数を増やすことや、箱罟等の有資格者との連携を密にとっていく。									
⑦遊休農地、急傾斜の法面の草刈り作業を個人任せだけではなく、地域で支援できる体制を構築していく。									
⑦今後も“中山間地域等直接支払”に取組み傾斜地等の農地の維持管理を行っていく。									

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

前地

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
1	利用者	小豆・水稲ほか	0.82 ha	ha	小豆・水稲ほか	0.82 ha	ha	1	
2	利用者	水稲・その他野菜ほか	0.76 ha	ha	水稲・その他野菜ほか	0.76 ha	ha	2	
3	利用者	水稲・そば(景観)ほか	0.59 ha	ha	水稲・そば(景観)ほか	0.59 ha	ha	3	
4	利用者	小麦・えだまめ(黒大豆)ほか	0.51 ha	ha	小麦・えだまめ(黒大豆)ほか	0.51 ha	ha	4	
5	利用者	水稲ほか	0.48 ha	ha	水稲ほか	0.48 ha	ha	5	
6	利用者		ha	ha	その他野菜・イタリアンライグラスほか	0.43 ha	ha	6	
7	認就	その他のうるちほか	0.43 ha	ha	その他のうるちほか	0.43 ha	ha	7	
8	利用者	水稲・その他野菜ほか	0.4 ha	ha	水稲・その他野菜ほか	0.4 ha	ha	8	
9	利用者	水稲ほか	0.32 ha	ha	水稲ほか	0.32 ha	ha	9	
10	利用者	その他のうるち・白大豆(一般)ほか	0.3 ha	ha	その他のうるち・白大豆(一般)ほか	0.3 ha	ha	10	
11	利用者	水稲ほか	0.29 ha	ha	水稲ほか	0.29 ha	ha	11	
12	利用者	イタリアンライグラスほか	0.29 ha	ha	イタリアンライグラスほか	0.29 ha	ha	12	
13	利用者	水稲ほか	0.28 ha	ha	水稲ほか	0.28 ha	ha	13	
14	利用者	水稲ほか	0.24 ha	ha	水稲ほか	0.24 ha	ha	14	
15	利用者	水稲ほか	0.23 ha	ha	水稲ほか	0.23 ha	ha	15	

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

前地

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
16	利用者	水稲ほか	0.17 ha	ha	水稲ほか	0.17 ha	ha	16	
17	利用者	その他作物	0.13 ha	ha	検討中	0.13 ha	ha	17	
18	利用者	その他野菜ほか	0.12 ha	ha	その他野菜ほか	0.12 ha	ha	18	
19	利用者	黒大豆ほか	0.1 ha	ha	黒大豆ほか	0.1 ha	ha	19	
20	利用者		ha	ha	検討中	0.1 ha	ha	20	
21	利用者	黒大豆ほか	0.09 ha	ha	黒大豆ほか	0.09 ha	ha	21	
22	利用者		ha	ha	検討中	0.08 ha	ha	22	
23	利用者	その他のうち・ 白大豆(一般)ほ か	0.3 ha	ha	その他のうち・ 白大豆(一般)ほ か	0.07 ha	ha	23	
24	利用者	小豆ほか	0.05 ha	ha	小豆ほか	0.05 ha	ha	24	
25	利用者	その他作物	0.02 ha	ha	検討中	0.02 ha	ha	25	
合計			6.92 ha	ha		7.30 ha	ha		

